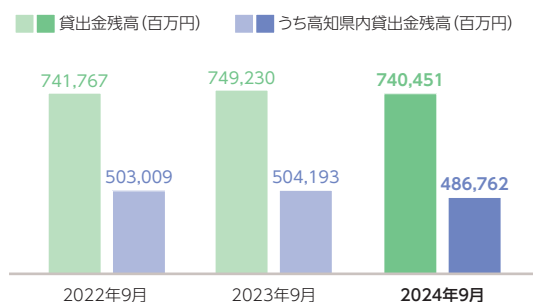


# 財務ハイライト

地域に密着した営業活動を展開してまいりました結果、当事業年度中間期の業績は以下のとおりとなりました。

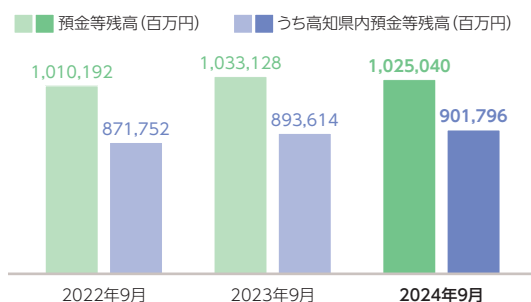
## 貸出金

お客さまの事業環境が変化するなか、金融仲介機能を発揮して地域中小企業の資金繰支援や様々なニーズに対し真摯に取り組んでまいりました結果、貸出金残高は個人ローンは増加しましたが、それ以外が減少したことから、全体では前年同期末比87億円減少して7,404億円となりました。



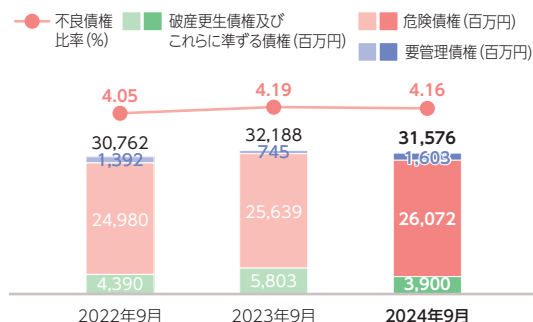
## 預金等（譲渡性預金含む）

地域における消費活動が持ち直しつつあるなか、個人預金は貯蓄から投資へ向かう流れもあいまって減少、法人預金も設備投資をはじめとした資金需要の高まりなどから減少し、預金等残高は前年同期末比80億円減少して1兆250億円となりました。



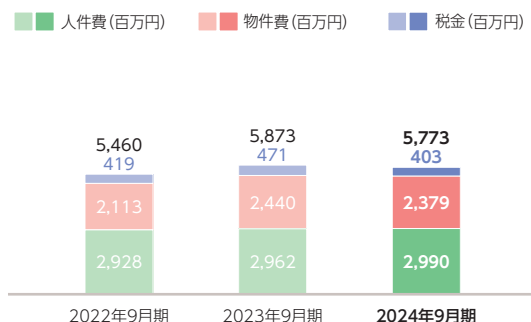
## 金融再生法開示債権及びリスク管理債権

金融再生法開示債券及びリスク管理債権の合計は、前年同期末比6億12百万円減少して315億76百万円となり、総与信額に占める比率は前年同期末比0.03ポイント低下して4.16%となりました。



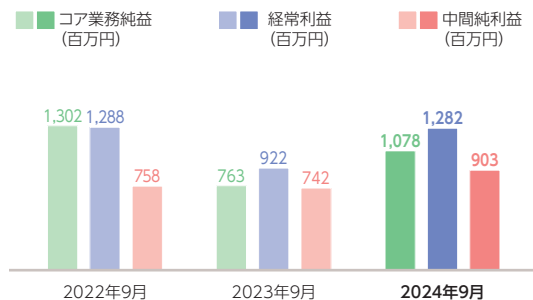
## 経費

職員の処遇改善により人件費は増加しましたが、物件費等が減少したことから、経費全体では前年同期比1億円減少して57億73百万円となりました。



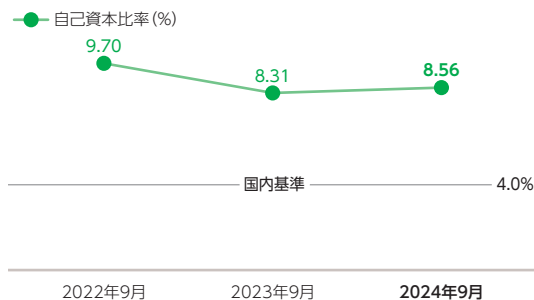
## コア業務純益・経常利益・中間純利益

地域に密着した営業活動を展開し、業績の向上と経営体質改善強化に努めた結果、コア業務純益は10億78百万円、経常利益は12億82百万円、中間純利益は9億3百万円となりました。



## 自己資本比率

経営の健全性の重要な指標とされる自己資本比率は、前年同期末比0.25ポイント上昇して8.56%となりました。

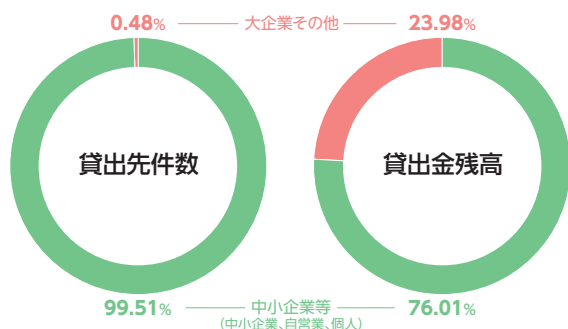


### ●コア業務純益

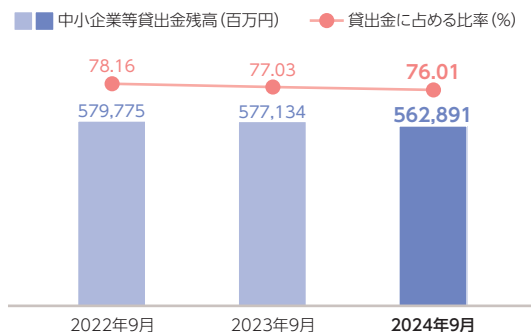
コア業務純益とは、資金の運用収支、手数料等の収支、外国為替や債券等の売買の損益等の利益から債券に係る損益と経費を差し引いて算出される利益で「銀行の本業での業績を表す指標」といわれています。

## 中小企業等に対する貸出金

中小企業等に対する貸出金の比率  
(2024年9月末)

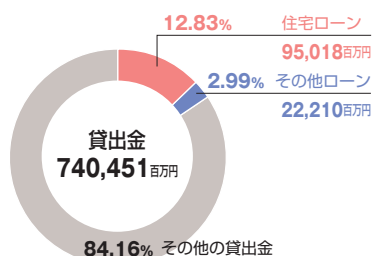


中小企業等に対する貸出金残高の推移

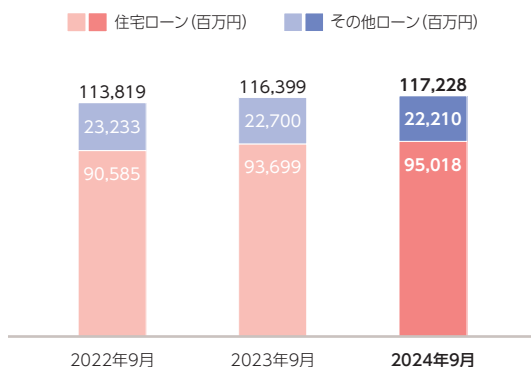


## 個人ローン

個人ローン(住宅ローン・その他ローン)残高の比率  
(2024年9月末)

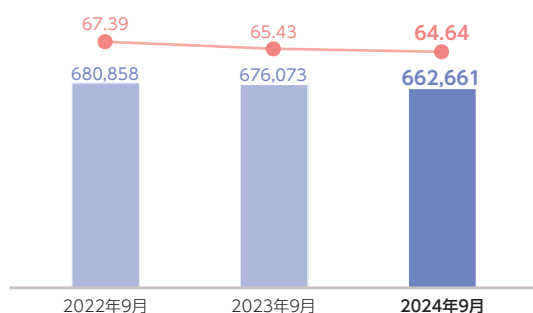


個人ローン残高の推移



## 個人預金の推移

個人預金残高(百万円) 個人預金比率(%)



## 預り資産の推移

投資信託(百万円) 生保窓販(販売累計額)(百万円) 国債(百万円)

